

1 テーマ

「国際的な視野をもち、ふるさとを愛する地球市民の育成（3年次）」

～地域の歴史、伝統、文化の継承と特色あるカリキュラムの創造～

2 活動の内容とねらい

（1）人形浄瑠璃体験（3年生）

3年生の総合的な学習の時間に、400年前からこの校区に伝わる「飽海人形浄瑠璃」の体験会を地域の方を講師にして実施した。人形浄瑠璃は、3人で操作する世界的に見ても高度な操作をともなう人形劇である。児童は実際に操作させてもらうことで、人形浄瑠璃の楽しさと、操作方法の工夫で人形に表情を持たせるなど、奥の深さを学ぶことができた。この活動のねらいは、郷土の文化に誇りを持ち、郷土を愛する心を育成することである。



地域の人から伝統芸能を学ぶ

（2）張り子の面づくり（5年生）

5年生の図工の時間に、地域の奇祭「鬼祭」のお面を、豊橋市に古くから伝わる張り子で面作りを行った。地域の張り子保存会の方を講師にお招きした。粘土で型をつくり、その上から和紙を張り合わせ、「ゴフノリ」と呼ばれる貝殻の粉を含んだ塗料を塗布し、乾燥させ、絵付けをする。校区伝統の「鬼祭り」の鬼や天狗の面を作成した。この活動のねらいは、郷土に伝わる伝統技能の巧みさや面作りの楽しさを学ぶことである。



地域の専門家を講師に招いて製作

（3）校区の歴史と文化を学ぶ会（6年生）

6年生の総合的な学習の時間に、古くから校区にあり、豊橋市の二大祭りである「祇園祭」「鬼祭り」が行われる「吉田神社」「安久美神戸神明社」の祢直さんを講師にお招きし、校区に伝わるお祭りの歴史について学ぶ会をもった。中でも鬼祭りは、徳川家康が15歳の時に、見学した逸話が残されており、地域と大河ドラマの主人公となる武将のつながりを身近に感じることができた。この活動のねらいは、郷土に伝わる祭りをとおして郷土の歴史を学び、郷土を愛する心を育成することにある。



祇園祭について先輩から学ぶ

3 成果と課題

地域の方を積極的に招きし、教育課程に地域の歴史、伝統文化など身近な地域の内容を組み込んだことで、自分たちの地域に誇りを持つことができる。今後も、世界への発信や交流を深めながら、地域の文化や歴史を発信できる児童の育成に努めたい。